

| | | |
|------|---------------|------|
| 方面 | 06JXR | (1面) |
| 1師団 | 春季演習場定期整備 | (3面) |
| 12旅団 | 06JXR | (4面) |
| 1施設団 | 団1・2・4科長等集合訓練 | (5面) |
| 関東補処 | 駐屯地・関東処記念行事 | (5面) |



令和6年6月25日 第1073号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

06JXR

災害対処計画の検証

各部隊独自の訓練も

方面隊は5月20日から24日までの間、令和6年度自衛隊統合防災演習(06JXR)に参加し、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対処の検証を行うとともに、大規模震災対処等における指揮幕僚活動を演練して、対処能力を維持・向上させるとともに実効性の向上を図った。

本演習は自衛隊が行う最大規模の統合防災演習であり、平成11年以来、今年で24回目となる。日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震は房総半島東方沖から三陸海岸の東方沖を経て択捉島の東方沖までの日本海溝と千島海溝の地殻の境界等を震源とする地震であり、津波を中心とした大きな被害が予想されている。

今回の想定は冬季に十勝沖を震源とするマグニチュード9・3の地震が

指針を示す総監



関係自治体等との討議



JXRの場を活用 各部隊訓練を実施

第1師団

師団隷下の各部隊は即応態勢確保のために各種即応態勢訓練を行い、師団の災害対処能力向上を図った。

特に第1普通科連隊は災害発生時に車両で前進が困難な状況を想定し、都内各区役所へ迅速に連絡員を派遣することを目的に徒歩前進訓練を計画し、実動により練馬駐屯地から都内各区役所に連絡員を派遣した。参加した隊員は「雨の中であったが行進中に区民の方から応援の声を掛けてもらった。災害が発生したときは自衛官としてその期待に応えられるよう不断の努力を続けていきたい」と話した。



東京駅付近を行進する連絡員

発生し、北海道から東北の地域において地震及び津波による被害が生起するといわれるものであり、方面隊は一部増強幕僚を受け入れ、陸海空軍各部隊司令部を編成し、大規模震災対処における各級司令部の指揮幕僚活動を演練するとともに、関係部外機関等との連携強化を図った。



朝霞駐屯地における緊急登庁支援 東方音楽隊隊員(左)予備自衛官(中央)

陸海空軍各部隊は大きな被害が生じた東北地方に第12旅団主力を派遣するとともに、第1師団及び第12旅団の一部で東方管内の応急対策活動を実施した。

また関係自治体等の実務者等を参集し、首都直下地震、南海トラフ巨大地震等震災等対処の実効性の向上を図るため、対



東方オピニオンリーダーに対する概要説明

応に係る討議を実施し、国、各自治体、関係機関の連携が不可欠との認識を共有した。

各駐屯地においては緊急登庁支援として発災後直ちにキッズサポートセンターを設置した。朝霞駐屯地では技能公募予備自衛官(保育士)を配置し、受付・面倒見・保護者引継ぎまでの一連の訓練

関係自治体の研修も 災害情報訓練



災害用ドローンの研修をする 関係自治体の防災担当者

を行った。

また方面隊は技能公募予備自衛官(弁護士・司法書士)を招集し、災害時ににおける法律支援及び

法律相談等に対する運用の実効性の向上を図った。さらに本演習を東方オピニオンリーダーが研修し、方面隊の活動に対する理解を深めた。

方面隊は06JXRの場を活用し、災害対処におけるヘリ映像・無人航空機等による映像情報の収集を千葉・茨城の各所において実動形式により演練するとともに、情報の処理及び使用までの一連の情報業務を総合的に演練した。

本訓練には関係自治体の防災担当者も研修に参加し、災害発生時の連携の強化を図った。

方面隊は映像情報の収集・伝送に係る練度を向上させた。

第12旅団

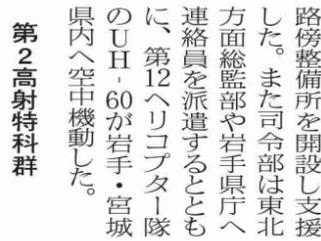


岩手県庁対策本部で活動する旅団LHO



UH-60による岩手・宮城県への空中機動

旅団隷下の各部隊のFAST Forceは所轄駐屯地から岩手県へ地上機動により展開し、災害用ドローン等を活用した被害状況の収集、映像伝送を目的とした情報収集訓練を実施した。この際、各部隊の地上機動に際して第12旅団支援隊が高速道路上のサービスエリア内で燃料給油所及び路傍整備所を開設し支援した。また司令部は東北方面総監部や岩手県庁へ連絡員を派遣するとともに、第12ヘリコプター隊のUH-60が岩手・宮城県内へ空中機動した。



第2高射特科群

2高群は出動準備のため物資の積載を行うと

東部方面システム通信群 守谷SAから所沢IC間におけるNEXCOC光回線によるシステム通信構成及び所沢ICから朝霞駐屯地間の野外多重無線によるシステム通信構成を実施した。また災害時の情報収集訓練として、ヘリ映像伝送及び配信を実施した。



守谷SAで回線構成

東部方面後方支援隊 後支援隊は増強幕僚として2人を東方総監部後方運用課へ、兵站支援隊要



緊急登庁及び人員掌握



出動準備

員として2人を関東補給処へ派遣し、方面隊区通過する部隊に対する補給整備適地の選定及び最適な支援要領の検討及び冬季の特性を踏まえた問題点等の案出等を行い、兵站運用の実効性の向上に寄与した。

また即応態勢訓練として、電話及びメールによる呼集から徒歩登庁(各駐屯地10キロメートル圏内)に引き続き、指揮所の開設を実施するとともに、各隷下部隊は被支援部隊に対する出動前点検等の支援態勢及び自隊の出動準備について演練した。

広報担当者 集合訓練

広報担当者としての識能向上

実務に直結する写真教育も

方面隊は5月14日から16日の間、朝霞駐屯地において、令和6年度第1回広報担当者集合訓練を実施した。本訓練は方面管下の広報担当者等に対して、広報活動に係る基本的事項、報道対応要

領、写真撮影技術等について教育するとともに、上級部隊の各種施策等を周知し、広報担当者としての識能の向上を図り、今後の広報活動の資となることを目的として方面管下の16個部隊、29駐屯

14日は東部方面システム通信写真班の支援を受け、写真撮影技術に関する教育を初級と中級のクラスに分けて実施した。教育の前半は全員に

16日は報道対応訓練を行い、訓練想定を駐屯地からの燃料流出事案とSNS投稿に対する苦情対応の状況として、Q&A作成と電話対応要領を演

訓練は被教育者が記者役と部隊側に分かれ、事案に対して記者からの問い合せに対応し、緊張感のある実践的な訓練を行うことができた。

方面隊は4月24日から25日の間、朝霞駐屯地において令和6年度管理科(課)長等集合訓練を実施した。

本訓練は駐屯地業務隊及び駐屯地業務担当部隊の識能向上及び情報共有を図るとともに新規採用者及び他職域からの補

参加者は「民間技術の発信は、すぐにも業務に反映できる内容が多数あり、参考となった」「陸幕・方面施策、予算環境等の教育を通じ、施設整備・施設管理等業務遂行の資となった」と訓練の感想を話した。

きるので、次回もぜひ参加したい」「他の駐屯地等との感想を述べておの広報担当者や意見交換・情報共有をすることができた。

職者に対し、基礎的事項を教育し、職務の概要を習得させることを目的として、管理科(課)長等36人新規採用者等23人が参加し行われた。

訓練の中で行われた討議・発表及び意見交換会では、問題解決の方向性を案出するとともに、参加者間の交流を活性化することができた。また民間技術の発信(企業展示会)を通じ、駐屯地の機能維持・向上に反映できる最新技術の理解を促進した。



広報室企画班長による全体教育



記念撮影の実習(中級)



見送りの撮影実習(中級)



撮影機材の教育(初級)



記者からの電話対応



電話対応訓練後の研究会

「広報に係る根拠や規則、実務に直結する知識や技術を習得でき、業務遂行の自信がついた」「広報の意義・重要性を再認識した。知識をフラッシュアップで



グループ討議の様子



民間技術の研修

新しい指導者の育成を担う フォーラム21を支援

第34普通科連隊は5月10日から11日の間、板妻駐屯地において第5中隊の担任で、フォーラム21の隊内生活体験を支援した。

フォーラム21とは21世紀の日本・世界を担う新しい指導者の育成を目的として昭和62年に設立され、わが国を代表する官界・経済界から将来指導的立場になるであろう人材を会員として構成された団体である。

非常呼集からの徒步行進に引き続き資材の運搬、自衛隊の行動について体験した。

参加者は慣れない団体行動に戸惑いながらも、徐々に相互に連携・協力

し、各人がリーダーシップ及びフォローシップ

を發揮して集団行動や団結の重要性を学び、リーダーとしての心構えの涵養を図る等、所望の目的を達成し生活体験を終了した。

5中隊は事前の準備から実行に至るまで、綿密な予行等をもち、態勢を確立し、熱心な指導により本支援の目的を達成した。

隊員が負傷者を発見し、救助活動を行う様子。

負傷者の搬送



自衛隊の基本動作



火災現場でほふく前進し負傷者を探す参加者



発声駆け足



第1師団

霊峰富士の麓 師団一丸で臨む 真に戦える練武の地を目指して

師団は4月16日から26日までの間、令和6年度春季北富士演習場定期整備を担任した。

本整備は東部方面隊演習場等中期整備計画に基づき、第1師団各部隊等の作戦遂行能力向上を図る練武の地である北富士演習場の機能を維持・向上させるとともに、周辺住民の安全の確保及び関係者間の連携強化を図る

ことを目的に実施された。桜満開の霊峰富士の裾野において、第1普通科連隊長を整備隊長として師団隷下8個部隊、部隊訓練評価隊及び東部方面特科連隊を含む計10個部隊で編成された北富士整備隊約1100人が本整備に臨んだ。

おける普通科1個小隊の展開地の新設により、演習場の機能向上を図るとともに、排水設備、機動路の維持・補修、演習場全域の除草等を行い、その機能維持を図り整備任務を完了した。

18日には師団長が整備状況を点検し、訓練最盛期に向けて真に戦える部隊育成の基盤が拡充できていることを確認した。

整備隊長賞を受賞した隊員は以下のとおり。



排水設備U字溝の埋設作業(1普連)



野焼き後、細部に至るまでの除草作業(1後支連)



点標の改修作業(1普連)

第1飛行隊は4月18日、立川駐屯地において令和5年度に取得した民生品の消火用貯水タンク「ファイヤーフレックス」を使用した空中消火訓練を実施した。

民生品を活用し有事に備える 山林火災等での即応・有効性の検証

同機材は約18000Lの水を貯水可能なゴム製の力ボチャ型の自立型タンク(水を入れると自動で自立)で、水源が離れた場所において緊急用・防火用として活用が期待できるものである。

整備隊長賞受賞者

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------|
| 【1普連】 | 本管中 柳澤2曹 | 【1施大】 | 本管中 佐藤曹長 |
| | 本管中 石澤3曹 | | 本管中 金森士長 |
| | 本管中 野口士長 | | 1 中岡本2曹 |
| | 本管中 小堀1士 | | 1 中網野2曹 |
| | 1 中清水1士 | | 1 中松本3曹 |
| | 2 中早津士長 | | 【1通大】 |
| | 3 中黒木士長 | | 1 中高橋士長 |
| | 4 中土田3曹 | | 【1特防】 |
| | 4 中内藤士長 | | 1 除染小 保科士長 |
| | 5 中宮城士長 | | 【1師付隊】 |
| | 5 中大塚士長 | | 管理小 大畑2曹 |
| | 重追中 桑原3曹 | | |
| | 重追中 中澤士長 | | |
| | 【1後支】 | | |
| | 本付 齊藤3曹 | | |
| | 1 整大 藤野士長 | | |
| | 2 整大 関3曹 | | |
| | 補給隊 中谷3曹 | | |
| | 輸送隊 山田1士 | | |
| | 衛生隊 原士長 | | |
| | 【1偵戦大】 | | |
| | 戦闘中 大友2曹 | | |



梨ヶ原廠舎地区駐車場のフラット化整備(1施大)



操縦士と整備員が連携し、タンクから水を汲み上げる

これまで水源については取水できる十分な水深がなかったり、地権者の承諾を得る必要があったり、火災現場等から取水点までの途中で民家や幹線道路上を飛行する場合などは、その都度安全飛行のため警察に道路封鎖を依頼したりと、非常に大きな制約を受けていた。そのため全国の航空科部隊が要望を上げていた同タンクを師団が自衛隊として初めて購入・取得した。

磐石の布陣で勇往邁進

第68回全日本銃剣道優勝大会



1普連は4月21日、日本武道館で行われた第68回全日本銃剣道優勝大会に参加し、防衛省第1部(5人1組の61個チームの団体戦)において準優勝の成績を収めた。

1普連は前回大会では普教連に決勝戦で力及ばず準優勝の惜敗を喫した。

の団体戦)において準優勝の成績を収めた。

1普連

東日本銃剣道優勝大会で優勝 全日本銃剣道優勝大会で準優勝

を寄せ付けない勝利への執念で優勝を収め、磐石の布陣で全日本銃剣道優勝大会へ勇往邁進した。本大会準決勝戦で前回第3位の第1空挺団(習志野)を接戦の末に倒し勝ち進むと、決勝戦は16普連(大村)と対戦、16を誇示できるよう精進し

- 1ムをけん引してきた蚊口3曹は「準優勝1普連」をスローガンに今年は頑張ってきたが、満足する結果を得ることができなかった。部隊や家族の期待に応えるべく日々精進し、来年は「常勝1普連」を誇示できるよう精進し

「頭号の絆」は部隊の礎 師団長・師団最先任同時降下



下長の号令で落下傘開傘紐と直結した環紐を導線に掛ける。「装具点検」の号令で師団最先任が前に並ぶ。師団長の装具を点検し「異状なし」の合図よろしく尻を叩く。「傘の絆」で結ばれた2人、互いに命を預け合う瞬間である。師団任務遂行のためには空挺団の「傘の絆」と同じように、頭ごなしの命令でなく「我ら頭号師団任務完遂のためにお前はこれをやってくれ。力をかして」と、階級や年齢を超え、人を信じ、互いに協力しあう鎖のような

師団長 兒玉陸将と師団最先任 上級曹長 中村准尉は4月10日、習志野駐屯地において実施された令和6年度全国空挺予備員降下訓練に参加し、全自衛隊で初となる師団長と師団最先任の同時降下を達成した。

CH-47JA輸送ヘリのランプドアが開き緊張感が高まる。外気が入り込む音と機内のエンジン音で心臓の高鳴りがかき消され「降下用意!環掛けッ!」降

たい。また銃剣道を通じて部隊の近接戦闘能力向上に貢献していきたい」と抱負を述べた。各大会の好成績を収めた選手は以下のとおり。▼東日本銃剣道優勝大会「優勝」先鋒 2中 角南3曹 次鋒 2中 仁尾3曹 中堅 5中 吉岡3曹 副将 5中 蚊口3曹 大将 3中 古矢3曹 ▼全日本銃剣道優勝大会「準優勝」(写真)先鋒 2中 角南3曹 次鋒 2中 仁尾3曹 中堅 5中 蚊口3曹 副将 4中 郷石近3曹 大将 2中 福田2曹

第12旅団

06JXR

災害対処計画の実効性を向上

令和6年度自衛隊統合防災演習

旅団は5月20日から24日までの間、令和6年度自衛隊統合防災演習に参加し、指揮幕僚活動能力の維持・向上を図るとともに、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対処計画の実効性向上を図った。

また指揮所演習（CPTX）と並行し、旅団独自で各種の実動訓練（FTX）を実施して初動対処の練度向上を図った。本訓練は厳冬期を想定した初めての訓練であり、20日の発災以降、司令部・各部隊は速やかに指揮所活動を開始、隊区内被害状況等の現況把握、また旅団各部隊のFAS T・Forceが、所在地から地上機動による支援活動を行った。本訓練を通じ、部隊運用の問題点を把握し、計画に反映させるべき事項を明らかにした。

FTXでは、司令部が岩手県庁及び東北方面総監部への連絡員を派遣、また旅団各部隊のFAS T・Forceが、所在地から地上機動による支援活動を行った。本訓練を通じ、部隊運用の問題点を把握し、計画に反映させるべき事項を明らかにした。

旅団は本訓練の成果を踏まえ、さらなる災害対処能力の向上を図る。

開設した移動指揮所における映像伝送等を確認した。さらに第12ヘリコプター隊のUH-60JAを岩手山演習場及び霞目駐屯地へ長距離機動させることも、第12後方支援隊は地上機動を支援するため、高速道路のサービエリア内に燃料給油所及び路傍整備所を臨時に開設し、前進する部隊を支援する等、司令部・各部隊が一丸となって訓練に臨んだ。

旅団は4月29日から、合教育（養成訓練）を開始した。本教育は第2普通科連隊長を担任官とし、レンジャー学生

旅団は4月29日から、合教育（養成訓練）を開始した。本教育は第2普通科連隊長を担任官とし、レンジャー学生

から資格検査に合格した22人に対し、7月中旬まで行われる。4月29日に行った訓練開始式において、担任官である第2普通科連隊長は「陸上自衛隊において最も厳しいレンジャー教育に挑戦しようとする諸君の姿を目的とする」と述べ、旅団隷下部隊等

から資格検査に合格した22人に対し、7月中旬まで行われる。4月29日に行った訓練開始式において、担任官である第2普通科連隊長は「陸上自衛隊において最も厳しいレンジャー教育に挑戦しようとする諸君の姿を目的とする」と述べ、旅団隷下部隊等

から資格検査に合格した22人に対し、7月中旬まで行われる。4月29日に行った訓練開始式において、担任官である第2普通科連隊長は「陸上自衛隊において最も厳しいレンジャー教育に挑戦しようとする諸君の姿を目的とする」と述べ、旅団隷下部隊等

から資格検査に合格した22人に対し、7月中旬まで行われる。4月29日に行った訓練開始式において、担任官である第2普通科連隊長は「陸上自衛隊において最も厳しいレンジャー教育に挑戦しようとする諸君の姿を目的とする」と述べ、旅団隷下部隊等



旅団指揮所における指揮幕僚活動



岩手駐屯地に展開した移動指揮所



地上機動を支援する12後支



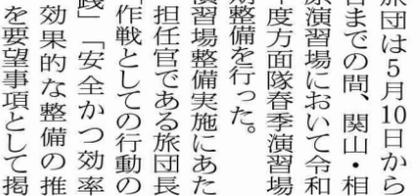
隊列を整えて駆け足行進するレンジャー学生



演習場内の伐採作業を行う隊員



機動路の維持補修



16式機動戦闘車の機動路



操縦手1名による伐採伐根



災害用ドローンによる測量

訓練基礎の機動を向上

令和6年度方面隊春季演習場定期整備

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団は5月10日から17日までの間、関山・相馬原演習場において令和6年度方面隊春季演習場定期整備を行った。

旅団隊員の識能を向上

ハラスメント防止、女性活躍推進他

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。



三浦講師によるハラスメント防止教育

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。



体力調整



山地総合訓練

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

旅団は4月23日、相馬駐屯地において隷下部隊長、最先任上級曹長、前総監部で教育が行われた。

第1施設団

団の科長等が参集 幕僚間で認識を統一



訓練開始にあたり訓示をする団長



施策等を説明する団第1科長

施設団は5月9日から10日の2日間にわたり、令和6年度団1・2・4科長等集合訓練を古河駐屯地で実施した。

訓練はこれまで各科ごと（業務別）にVTCで実施していたが、本年度は隷下部隊を古河駐屯地に参集し開催した。訓練の実施にあたり、団長からは「方面施設として使命を果たす源泉としての幕僚業務の在り方」について訓示、副団長からは「幕僚の一分」について説示を行い、参加した隷下部隊の各幕僚等は、自らの職責の重要性を再認識した。

各科教育においては、上級部隊及び団の制度や施策について教育するともに、それぞれ直面する課題について討議等を行い、さまざまな考案が案出された。普段、直接顔を合わせることのない隷下部隊の担当者等が、施設団の幕僚一同、作戦基盤の強化の重要性について認識を共有し、方面施設として使命を全うすることを再認識する集合訓練となった。

フォロー募集中

【X】

前期陸曹候補生2次試験 後継者を育成し人的基盤を充実



口述試験を受験する隊員



術科試験(分隊教練)を受験する隊員



着眼点を説明する分隊長(受験者)

施設団は4月23日から24日の2日間、古河駐屯地において、令和6年度前期陸曹候補生選抜2次試験を実施した。

1次試験に合格した受験者は、2次試験において口述試験及び術科試験（分隊教練）を受験し、これまで零細時間を活用し練成してきた成果を充分に押し、全力を尽くした。

今後も施設団は、部隊において積極的に後継者を育成し人的基盤の充実と発展に寄与していく。

関東補給処

霞ヶ浦駐屯地開設71周年 関東補給処創立26周年 記念行事 「支える矜持」をテーマに



参列部隊を巡閲する司令



存在感のある25トンフォークリフト



輸送防護車の観閲行進

関東補給処長兼ねて霞ヶ浦駐屯地司令は4月28日、霞ヶ浦駐屯地において「霞ヶ浦駐屯地開設71周年及び関東補給処創立26周年記念行事」を挙行した。

記念式典に先立ち行われた感謝状贈呈式では、部外協力者及び協力団体に感謝状を贈呈した。

記念行事は「支える矜持（矜持＝誇り）」をテーマに行われ、式典には多数の来賓が臨席した。司令は参列隊員に対し「今日の記念日にあたり『我々が機能しなければ』と誓った。

また結びとして「先人のご努力に想いをいたし、現在を生きる我々は『支える矜持』をもってさらなる一歩を踏み出す」と誓った。

格闘基幹要員集合訓練 自学研鑽し練度向上へ



背後からの襲撃に対処する要員

格闘教育訓練新基準の普及及び教育に関する認識の統一を図った。

本訓練は格闘基幹要員に対し、格闘技術及び訓練実施要領等に関する知識を習得させ、各部・各支処等の訓練基盤の充実を図るために行われ、参加した隊員は期間中、自学研鑽しながら終始真剣に取り組んでいた。

陸曹目指し2次試験

1次試験合格者が臨む



採点する本処・各支処先任



整理整頓する受験者

関東補給処は4月19日、霞ヶ浦駐屯地において陸曹候補生選抜2次試験を実施した。

2次試験は面接及び分隊教練からなっており、各部・各支処等から1次試験を合格した隊員10人が陸曹を目指し試験に臨んだ。

受験者は目標とする陸曹等について面接官の問いに心えるとともに、分隊長では声を張り上げ真剣なまなざしで分隊長を指揮していた。

かすみがうらマラソン支援

大会運営円滑に



霞ヶ浦駐屯地は4月21日、土浦市川口運動公園陸上競技場で開催された「第34回かすみがうらマラソン」兼国際フライドマラソン」に関東補給処、第101全股支援隊及び第103補給大隊から隊員を派遣し大会運営を支援した。

大会運営関係者と綿密に連携を図り、小型トラックでの選手団先導、業務車での審判員輸送、各定点における給水支援などを行い、約1万3千人がエントリーした大会において、円滑な大会運営に寄与した。

記念行事は式典のほか、東部方面音楽隊のミニコンサートや装備品展示、高機動車の体験試乗など、さまざまなイベントが駐屯地内各所で行われた。

記念行事にあたり一般開放とした駐屯地は、開門時間から多数の来場者でにぎわいをみせ、盛会のうちに終了した。

霞ヶ浦駐屯地公式ホームページ
<https://www.mod.go.jp/gsd/eae/eadep>

＼(旧ツイッター) フォロワー募集中!!

陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式
©CampKasumigaura

後支隊 生活支援隊が任務完遂 被災地の復興に寄与

東部方面後方支援隊は、令和6年1月5日から5月10日までの約4カ月間、令和6年能登半島地震に伴う災害派遣活動に従事した。後支隊は東部方面生活支援隊の基幹部隊として、第1師団、第12旅団、東部方面システム通信群、東部方面会計隊、東部方面衛生隊及び東部方面警務隊からの配属を受け、被災された方々に対する入浴支援及び給水支援を主たる任務として活動に従事し、災害派遣任務を完遂した。



入浴支援を実施する隊員と被災された方々



任務完遂し帰隊した隊員



システム通信競技会において有線構成をする隊員

東部方面特科連隊は5月26日から30日までの間、東富士演習場等において、7月に予定されている連隊実射検閲に向けた各種戦技能力の向上及び部隊の団結・士気の高揚を目的とした、令和6年度連隊戦技競技会を実施した。

本競技会は目標位置の決定及び観測シミュレーターを使用した射撃の観測で競う前進観測班の部、大隊内の指揮所間の有線構成及び無線所開設の正確・迅速さを競うシステム通信の部、特科陣地地域測量の精度及び速度を

特科連隊 連隊実射検閲を見据え 戦技競技会で練度向上

競う測量の部において10個中隊が競い合った。緊張感が漂う中、参加各部隊は一丸となり、年度当初から計画的かつ段階的に積み上げてきた練習成果を遺憾なく発揮するとともに、連隊実射検

前進観測班競技会の様子



前進観測班競技会の様子



委嘱状の伝達及び交付



展示機の前で記念撮影

式終了後には駐屯地概要説明、モニター業務説明、駐屯地見学などを行い、駐屯地に対する理解の促進を図った。

駐屯地見学では飛行場を周遊するヘリコプターを間近で見学するとともに、駐屯地施設などを見学した。

その後、新旧モニターの意見交換を行い、認識の共有を図った。その中で新規モニターは「先輩モニターからの思いを受け、気持ち新たに今後の活動を行っていく」と意欲を見せていた。

駐屯地はモニター意見を諸施策に反映させ地域社会との一体化を図るとともに強靱な東部方面隊の創造を目指して、任務にまい進していく。

立川駐屯地 新モニター 委嘱行事に参加 駐屯地への理解深める

立川駐屯地は4月17日、令和6年度防衛・駐屯地モニター終了式・委嘱式を行った。

式では駐屯地司令より任期を満了したモニターに「信頼される駐屯地と

なれるよう隊員一丸となって任務にまい進します」と思いを述べた。

また継続・新規モニターの方には「部隊研修、各種行事を通じて、我が国の防衛問題、自衛隊及び駐屯地の活動について意見をいただきたい」と述べ、信頼される駐屯地となるためのアドバイスをお願いした。

その後、新旧モニターの意見交換を行い、認識の共有を図った。その中で新規モニターは「先輩モニターからの思いを受け、気持ち新たに今後の活動を行っていく」と意欲を見せていた。

駐屯地はモニター意見を諸施策に反映させ地域社会との一体化を図るとともに強靱な東部方面隊の創造を目指して、任務にまい進していく。

生活支援隊は石川県珠洲市内各地において一日約15トンの巡回給水支援を実施するとともに、珠洲市内の避難所の最大3カ所に野外入浴セッ



給水支援を実施する隊員

トを開設し、一日最大約600人の被災された方々に対する入浴支援を行い、心身のリフレッシュに貢献することができた。

入浴支援任務遂行中、被災された方々から多くの感謝のメッセージが届いたので一部を紹介する。「自衛隊の皆さんにあ

りかどうの言葉しかありません。被災地に来てくれて本当にありがとうございます。隊員家族の方々も心配していることでしょうか。ぜひ家族の方にもありがとうを伝えてほしいです。自衛隊さんいつも声掛けしてくれてありがとうございます。本当に癒しました。地震で大変ですが自衛隊の方々のおかげで前向きな気持ちになりました。ありがとうございます。」

東部方面後方支援隊は一日も早い被災地の復興をお祈りするとともに、被災された方々からのメッセージを胸に、これからも任務に邁進していく。

また、あらゆる事態の生起に際して、直ちに能力を最大限発揮できるように即応態勢の維持に努めるとともに、兵站支援部隊として任務を完遂できるように日々精進していく。

シ通群 練成の成果を発揮 曹候2次試験を実施



自己記録の更新を目指し全力疾走



口述試験に臨む受験者

東部方面システム通信群は5月13日から16日まで、1次試験を突破し、2次試験を受験する14人の隊員は当初、試験委員長の副群長に対する申告を行い、終始、真摯な姿勢で試験に臨んだ。

口述試験では、緊張した面持ちではあったものの、面接官の質問に対し、陸曹昇任への意気込みや自身の熱い思いをしっかりと口調で答えた。

術科試験においても分隊長として小部隊を率いることを期待している。

受験生は「あらゆる時間を利用して指導を頂いた先輩方には感謝しありがとうございます。また多くの方が応援に駆け付けてくれたおかげで、最後まで気を緩めることなく、自分の力を出し切ることができました」と答えていた。システム通信群の次世代を担う隊員としてますます活躍してくれることを期待している。

の間、朝霞駐屯地において、令和6年度前期一般陸曹候補生入校予定者選考及び第146期(女性第106期)陸曹候補生選抜2次試験を実施した。

つと指揮し、練成の成果を遺憾なく発揮した。また体力検定では、小雨の中、最後まであきらめない強い気持ちで自分の限界に挑戦し、応援に駆け付けた隊員らの声援に励んでいた。

栃木地本

県最大のアニメ・コスプレイベント 若者に自衛隊をアピール

自衛隊栃木地方協力本部は5月4日・5日の両日、宇都宮市内のオリオン通りで行われた「とちぎ☆アニメフェスタ」の広報展に参加した。とちぎ☆アニメフェスタは、とちぎテレビ主催による、漫画・アニメ関連のイベントで、当日はGWの真っ只中ということもあり、コスプレヤーも若者を中心に、家族連れなど多くの来場者でにぎわった。

自衛隊の広報展では、1/2トトラック及び携行食の展示、制服試着、募集説明コーナーを設け、来場者が記念撮影をするなど人気を博していた。また、栃木県最大のコスプレイベントと言うこともあり、たくさんの方々がコスプレヤーやイベントを自衛隊の若者が来場者の中心となり、多くの若者に自衛隊についての説明やアピールを行うことができた。

自衛隊ブースを訪れたコスプレヤーからは、



コスプレヤーとの記念撮影

「自衛隊とコラボ写真でとても映える写真が撮れました」「自衛隊の人と話ができてイメージが変わりましたーもっと怖く集まるといいな」と思っていました。また、自衛隊の広報展では、1/2トトラック及び携行食の展示、制服試着、募集説明コーナーを設け、来場者が記念撮影をするなど人気を博していた。また、栃木県最大のコスプレイベントと言うこともあり、たくさんの方々がコスプレヤーやイベントを自衛隊の若者が来場者の中心となり、多くの若者に自衛隊についての説明やアピールを行うことができた。

静岡地本

ジャパンラグビー最終戦 自衛隊登場で歓喜



第1飛行隊のUH-1からリパリングする空挺隊員

自衛隊静岡地方協力本部は5月5日、ヤマハスタジアムで行われた静岡ブルーレヴズ対東芝ブルーパス東京戦において広報活動を行った。静岡ブルーレヴズは静岡県をホストエリアとするラグビーチームで、シーズン最終戦ということもあり、会場には約1万4千人の観客が詰めかけた。静岡地本は会場駐車場に広報ブースを開設し写真パネルで自衛隊の活動の様子を紹介するとともに、軽装甲機動車等の車両展示、迷彩服、重さ20kgを超える落下傘の試着体験等を行った。ブースにはチームのユニフォームを着た多くのラグビーファンが訪れ、迷彩服及び落下傘を試着して記念撮影を申し込んでいた。

試合のオープニングでは空挺団が第1師団第1飛行隊のUH-1でスタジアム上空に登場、客が熱い視線を送る中、隊員がロープを使って勢いよく降下すると、会場に大きな歓声が響いた。その後、隊員が両チームの旗、空挺章のマークをかたどった旗を掲げて手を振ると、満員の観客席からは割れんばかりの拍手が湧き起こった。

静岡地本は今後もさまざまなイベントに参加し、多くの人に自衛隊の活動を知ってもらえるよう努めていく。

「自衛隊とコラボ写真でとても映える写真が撮れました」「自衛隊の人と話ができてイメージが変わりましたーもっと怖く集まるといいな」と思っていました。また、自衛隊の広報展では、1/2トトラック及び携行食の展示、制服試着、募集説明コーナーを設け、来場者が記念撮影をするなど人気を博していた。また、栃木県最大のコスプレイベントと言うこともあり、たくさんの方々がコスプレヤーやイベントを自衛隊の若者が来場者の中心となり、多くの若者に自衛隊についての説明やアピールを行うことができた。

着体験等を行った。ブースにはチームのユニフォームを着た多くのラグビーファンが訪れ、迷彩服及び落下傘を試着して記念撮影を申し込んでいた。

試合のオープニングでは空挺団が第1師団第1飛行隊のUH-1でスタジアム上空に登場、客が熱い視線を送る中、隊員がロープを使って勢いよく降下すると、会場に大きな歓声が響いた。その後、隊員が両チームの旗、空挺章のマークをかたどった旗を掲げて手を振ると、満員の観客席からは割れんばかりの拍手が湧き起こった。

静岡地本は今後もさまざまなイベントに参加し、多くの人に自衛隊の活動を知ってもらえるよう努めていく。

神奈川地本

柔道部でボランティア活動 自衛隊の魅力伝える

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所の一立横浜高等学校において

ある！ある！自衛隊



練習後の記念撮影

柔道部での指導員のボランティア活動を行った。高田2曹は小学4年生から大学4年生までの13年間柔道に取り組み、防衛大学校勤務時に同校柔道部の顧問や監督として6年間指導にあたった経験を生かし、今回、横浜高校の進路指導担当の教諭との調整により、休暇を利用して指導を行った。当日は部員10人のほか、入学予定の中学生5人が練習に参加し、高田2曹から投げ技や寝技のコツに関する指導を受けながら反復練習を繰り返すなど、約3時間汗を流した。

練習では「技に入るタイミングはどのようになればいいのか」

高田2曹は小学4年生から大学4年生までの13年間柔道に取り組み、防衛大学校勤務時に同校柔道部の顧問や監督として6年間指導にあたった経験を生かし、今回、横浜高校の進路指導担当の教諭との調整により、休暇を利用して指導を行った。当日は部員10人のほか、入学予定の中学生5人が練習に参加し、高田2曹から投げ技や寝技のコツに関する指導を受けながら反復練習を繰り返すなど、約3時間汗を流した。

練習では「技に入るタイミングはどのようになればいいのか」



高崎地域事務所前で笑顔で記念撮影 父親(左) 息子(右)

「将来、自衛隊員になりたい」という息子が自身体で調べて私に話したのが陸上自衛隊高等工科学校でした。受験するにあたり進学校レベルの学力が必要なので学力が伴わない息子が高等工科学校を受験したい旨を担任に相談すると苦笑いされるほどでした。

推薦試験は中学校が2の足を踏む状況で息子も交え学校長や学年主任へ高等工科学校に対する熱い思いを伝えようにか学校推薦を頂きました。

推薦試験の結果は「不合格」や「ぱり」という思いがありました。相当悔しかったのでしよう。息子の本当に行きたい

群馬地本

十五歳の決意 山田順弘(父)

4月1日に入校し、入学式までの一週間で厳しく叩き込まれたらう制服姿の息子を見て、胸に込み上げてくるものがありました。

ゴールデンウィーク休暇で、初めて帰省した息子の大人びた姿に驚きました。

帰省最終日、駅のホームまで家族で見送った際「じゃあ、行くね」と笑って列車に乗り込む息子はこちらを振り返ることなく車内に消えて行きました。15歳の決意した息子に次に見える時は「合格」という知らせに息子と抱き合って喜び合いました。

訓練所感

東部方面衛生隊 3等陸曹 高橋一輝



能登半島災害派遣に参加して

旧や断水の復旧は見通しがついていない状態でした。

東部方面衛生隊の任務は拠点である内浦総合体育館内に開設した救護所の運営、防疫活動及び入浴施設の救護支援の3つです。

私の任務は主に、拠点又は入浴施設を運営している隊員を対象とした救護でしたが、入浴にいられている一般の方々も体調不良又は怪我をした際には救護員として応急処置を行うことも役割の一つでした。一般の方の患者数は決して多くはなかったのですが、処置にあたる際に「自衛隊さんは親切で丁寧だから助かる」と声を掛けていただけました。衛生科員に尽きる言葉であり、やりがいを感じる瞬間でもありました。

入浴施設の脱衣所に、一般の方が自由に意見や感想を書くことができるノートがあり、そこには皆さんの感謝の言葉が寄せられているのを見て、私たちの活動が被災されたたくさんの方々の助けになっていることを改めて認識するとともに、胸が熱くなる思いでした。

最後に被災地域の日も早い復旧を祈るとともに、今回の経験を糧に衛生科員として精進していきたいと思っています。

最先任 上級曹長

「思いやり」

第1偵察戦闘大隊 西山 朋秀 陸曹長



「あづま」をご覧の皆様こんにちは。令和6年3月18日付で第2代第1偵察戦闘大隊最先任上級曹長を拝命しました。東京都小平市出身の西山曹長と申します。

経歴につきましては、平成4年3月第31普通科連隊教育隊（前期）に入隊後、第1機甲教育隊（後期）、第1戦車大隊偵察小隊、第1偵察隊において、偵察一筋で勤務をし、令和4年3月、第1偵察戦闘大隊偵察中隊先任上級曹長を経て、現職に至ります。

突然ですが、皆様思いやりについて考えたことはありますか？「思いやり」は奥深いものと思っております。「思いやり」は誰にも見えないが「思いやり」は見える。「思いやり」は見えなくても「思いやり」は思っている。思っているだけではだめで、決して見せかけの行為ではなく、その人の「こころ」や「思い」からの行為で

あり、思いやりとは大きな恩恵を施すものではなく、やさしさ、いたわり、他の人の痛みを感じること、譲る、助ける、気を配るといった日常の些細な「親切」であるという話を聞いたことがありません。最先任上級曹長として、このような他人を思いやる心を持った隊員を育てていかなければならないと思っております。

部隊新編から3年目、これからの第1偵察戦闘大隊の実力が発揮される今、前任者からのバトンを受け継ぎ「上意下達、下意上達、曹士の育成」

に全力で取り組み、隊員一人一人が大隊の顔であるとの誇りを持ち、任務に邁進できるよう日々精進しなければならぬと身の引き締まる思いです。

大隊長要望事項「錬磨無限」「日々前進」を具現実行するため、今まで以上に風通しの良い勤務環境となる様努力していくとともに、自ら考えて行動できる隊員、思いやりを持った隊員の育成をめざし職務に邁進して参ります。

「あづま」読者の皆様どうぞ宜しくお願い致します。

オピニオン 一言申し上げる

東方オピニオンリーダー会会長 長塚ゆみ子



令和6年度オピニオンリーダー会会長を仰せつかり、4年目の任期が始まりました。日本の安心・安全を、我が事を脇に置いて、守って下さる自衛隊の皆様により感謝申し上げます。

令和4年秋から、オピニオンリーダー研修が再開され、観閲式、JXR（自衛隊統合防演習）、東部方面区内の駐屯地、北方研修や西方研修では陸・海・空の数多くの駐屯地・基地で研修をさせていただきました。

現場の自衛官の任務に

この努力ができる自衛隊が日本を守って下さっているのだと「人の力」に胸が熱くなりました。

富樫総監は行事のご挨拶の中で、裏方の存在に言及されます。表に出ない働きに承認の言葉を贈る、ポジティブフィードバックにとれほどやりがいや喜びを感じるでしょうか。言葉を大切に、「人の力」を引き出す総監をトップとする東部方面隊に誇りを感じます。

オピニオンリーダーとして自衛隊の在り様を伝え、自衛隊と民間の架け橋となるサポートをさせていただきます。

「自分らしく」 女性自衛官教育隊 高橋 瑛美 3等陸曹

今月のフェアレディは女性自衛官教育隊の高橋3曹です。

高橋3曹は平成29年入隊、入隊前は大学でソフトボール漬けの毎日でした。

Q 自衛隊に入隊したきっかけは？

公務員で安定している職業と思いついて入隊しました。

Q 現在の職務は？

女性自衛官教育隊で新隊員課程及び陸曹候補生



課程の助教をしております。

Q 現在の職務に就いて、やりがいを感じることは？

助教として教育をし、学生自身ができなかったことができるようになったり、目標を掲げそれを達成した時の喜ぶ姿や、何かに全力で取り組む姿勢、日々学生が成長する姿を見ている時です。

Q 今後の目標は？

自分らしくあり続けることです。私がこうして勤務できるのも周囲の人の支えがあるからで、その感謝の思いを行動で示し、恩返ししていきたいです。そして自分らしくを忘れずに日々精進していきます。

Q 最後に一言

教育隊は日々学びの連続であると感じています。助教という立場ですが、何事にも真剣に取り組む学生から、刺激やパワーを貰うことが多く、学生から学びや気付きを得ることが多々あります。また、どんな時も支えてくれる同僚や、頼りになる上司の存在が大きいです。私にとって女性自衛官教育隊は最強で最高の職場です。

東方男児 「日々努力」 第2普通科連隊 竹内 友翼 3等陸曹

今月の東方男児は第2普通科連隊第1中隊に所属する、竹内友翼（ゆうすけ）3曹です。

新潟県妙高市出身、小銃手として勤務をしています。

Q 入隊の動機は何ですか？

中学生の時に映画「硫黄島からの手紙」を見た影響が大きいと思います。「我々の子供たちが一日でも長く安泰に暮らせるなら、我々がこの島を



守る一日には意味がある」という言葉に自分の「大切な人との国を守りたい」という思いが重なり、自衛官を志しました。

Q 2 普通科を希望した理由は？

幼いころからクロスカントリースキーをして育ちました。高田駐屯地は積雪地帯という特性もあるため、学生時代から培った体力と技術が生か

せると思い普通科を希望しました。

Q 3 これまで最も思い出深い訓練は何ですか？

冬季戦技訓練隊（バイアスロン）に所属していたことです。

自衛隊バイアスロンと言えば高田2普通科と言われる強豪チームで5年間選手として活動していました。個人種目でいくつか入賞できましたが優勝

には届きませんでした。

どんなに頑張っても上には上がいること、努力に終わりはないことをチームの先輩の姿を見て学びました。

Q 4 今後チャレンジしたいことは？

スキー指導官になることと狙撃手になることです。スキーは自分の得意分野なので、部隊のスキル向上に貢献したいと考えています。

狙撃手はバイアスロンで培った射撃の技術と体力を生かすとともに、日々努力してさらにレベルアップしたいと考えます。

編集後記

「インサイド・アウト」という発想がある。これは、社会人の自己啓発本として名著である『七つの習慣』（ステイブ・R・コウラー）にて紹介されている考え方のひとつで、自己の内面にあるものを変えることで問題を解決する手法であり、組織レベルから個人レベルまで当てはめることができるという。

先日、方面中隊長等集合訓練に携わる機会を得た。意見交換の場に出てきた参加者の悩みは、服務指導の内容がほとんどだった。数年前に中隊長職を経験した小官も、同様の悩みを抱えていた。それは20、30代の若い世代の隊員への向き合い方である。突然、中隊長の先任を通じて面談を申し出てきた隊員がいた。退職したいという。他業種に挑戦したいとのことだったが、その言葉に熱意を感じず真意を疑った。初めて会った時は、明るく好青年で、部隊内での評価も高く陸曹候補生の指定も受けていた。木か鼻をくっつけたような態度で、なか鼻をくっつけたような話を聞いてくれない。まるで別人のようだった。幾度となく先任

と議論を重ね、総合的に最良と思われるプランを提示したが見向きもしなかった。申し出から数か月後、彼は静かに駐屯地を去った。個性が重視され、個人の主張が尊重されることが当たり前のことと育った世代としては、組織の論理や文化がやや異質に感じられたのかもしれない。他方で、中隊長としての自分のやり方が一方的ではなかったか、彼に対して見たいものしか見ていなかったのではないか、自問した。私は、徐々に形成されたはずの彼の変化に気づけなかった。何が分岐点だったのか、未だにはっきりと説明できない。

他者からの厳しい指摘や受け入れがたい現実と直面したとき、外部に対して批判的になる気持ちを抑えて、それを受け入れ、自分に改善点はなかったか考える。そのように、自分と向き合い妥協点を見いだせたとき（インサイド・アウトができたとき）人は人として成長していくのではないだろうか。これは言葉少なに去っていった彼の問いであり、未だに彼の決断の所以を見出せていない私自身への問いでもある。